

畜産クラスターについて

平成27年3月
農林水産省生産局畜産部

○ 畜産クラスターの取組と支援のイメージ



〇〇地域畜産クラスター協議会
(畜産農家、地方公共団体、JA、畜産経営支援組織、畜産関連業者等)

繁殖雌牛の増頭と繁殖性の向上で、
地域の収益性を向上しよう！

関係者が連携し、収益性の向上を図る取組を記載した
畜産クラスター計画を作成

〇〇地域畜産クラスター計画 ※ 人・農地プランや既存の畜産の振興計画を
応用して活用することもできます。

【目的】 中心的な経営体を核とした繁殖雌牛の増頭や地域の関係者が連携した
繁殖性向上の取組、飼料供給の拡大により、地域の畜産の収益性を向上

取組②
地域の繁殖農家が中心的な経営体に
牛を預託することによる空きスペースを
活用して増頭。

取組③
獣医師や人工授精師、JA等がチームを
作り、繁殖経営の受胎率の向上、子牛
損耗防止等の指導を実施。

取組①
中心的な経営体 ※(一貫経営)が、
規模拡大し、地域の繁殖農家から子牛
の預託を受けて育成し、斉一性を向上。

取組④
増頭に対応するため、中心的な経営体 (飼料生産受託組織)が
高度化機械を導入し飼料増産。

都道府県知事が
クラスター計画を認定

収益性の向上の取組を
いっそう推進するため、国庫補
助事業により、取組を支援。
(支援措置の例)

取組①に対して、中心的な経営
体の規模拡大のための施設整備
を支援。

取組③に対して、構成員が取り組
む繁殖性の向上のための調査・
分析・指導等を支援。

取組④に対して、中心的な経営
体が行う飼料収穫機械等の導入
を支援。

増頭と斉一性の向上
により販売額を増加

+

繁殖性向上による
生産コスト低減

+

自給飼料供給拡大に
よる飼料コストの低減

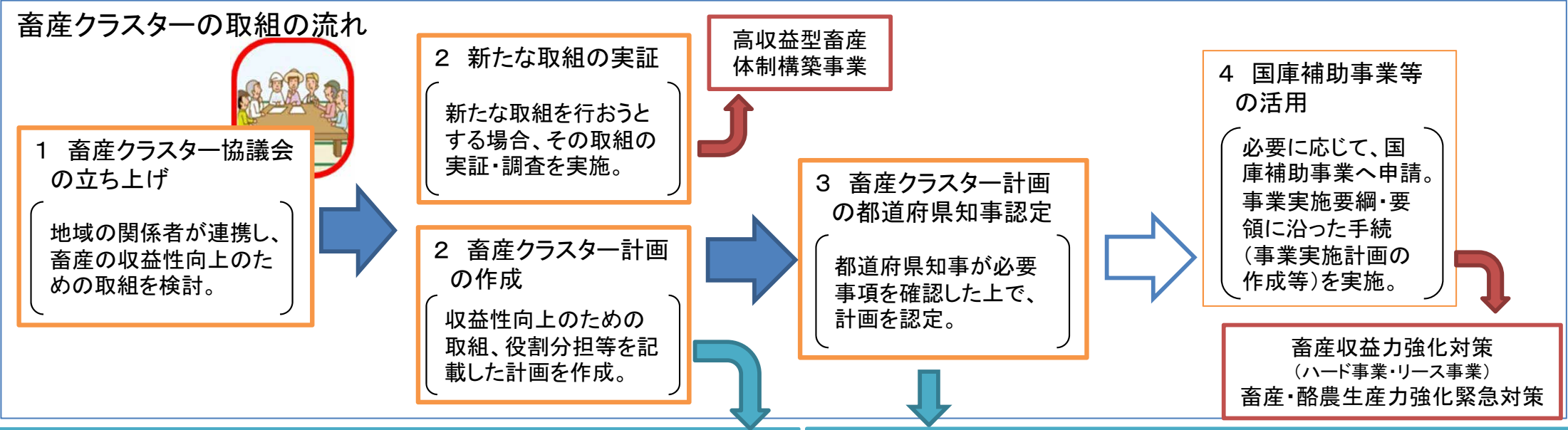
=

地域の畜産の
収益性の向上

※ 畜産クラスター計画には、その計画の実現のために必要な取組を実施する役割を担う「中心的な経営体」を定めます。

○ 畜産クラスターの取組の流れ

- 畜産クラスター計画とは、畜産クラスター協議会が定める、地域の畜産の収益性向上を図るための計画です。
- 地域の畜産の収益性向上のための課題や解決のための取組は、クラスターに参画する関係者がそれぞれの責任、役割のもと、自主的に取り組むことが重要です。
- 都道府県は、地域の畜産の収益性向上の取組に積極的に関与することが重要ですので、都道府県知事はクラスター計画を認定することができます。
- 国は、国庫補助事業等により、畜産クラスター推進の支援をします（畜産収益力強化対策等の活用には、都道府県知事の認定を受けた畜産クラスター計画が必要です。）。



☆ 畜産クラスター計画の記載項目

- ① 協議会の名称
- ② 目的
- ③ 地域の畜産の収益性向上のために行う協議会の取組内容
- ④ 取組により期待される効果とその実現のために各構成員が果たす役割
- ⑤ 中心的な経営体

☆ 畜産クラスター計画認定に際して確認する項目

- 都道府県知事は、クラスター計画が地域の畜産において、
- 生産コストの削減、高付加価値化、新規需要の創出等を通じて、地域の収益性の向上に資する取組であり、かつ
 - 地域内の畜産の中心的な経営体への再編・合理化又は畜産農家以外の者との連携強化に資する取組であり、以下が確認される場合にクラスター計画を認定。

- ①収益性の向上の取組とその効果、②関係機関の連携とその役割、③取組の継続性、④酪肉近都道府県計画との整合性 等

畜産・酪農の収益性向上に取り組みます ～高収益型畜産体制構築事業、畜産収益力強化対策～

事業の概要

○ 関係事業者が連携・結集した地域ぐるみの
高収益型畜産体制(畜産クラスター)の構築を推進します



○ 畜産クラスター計画に位置づけられた中心的な経営体の
収益性の向上、畜産環境問題への対応に必要な
機械のリース整備や施設整備等を支援します



【畜産クラスターの取組の流れ】



① 畜産クラスター協議会
の立ち上げ

地域の関係者※が連携し、畜産の収益性向上のための取組を検討
※畜産農家、地方公共団体、JA、畜産経営支援組織、畜産関連業者 等

② 畜産クラスター
計画の作成

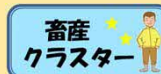
収益性向上のための取組、地域の関係者の役割分担等を記載した計画を作成

③ 都道府県知事の
計画認定

都道府県知事が必要事項を確認した上で、計画を認定

④ 国庫補助事業等の
活用

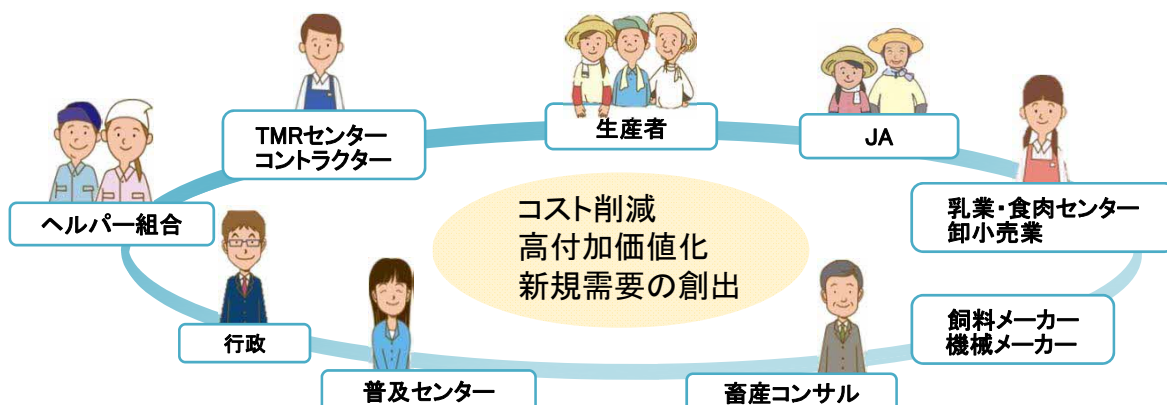
必要に応じて、国庫補助事業へ申請。



高収益型畜産体制構築事業

地域ぐるみで収益性を向上させる畜産クラスターの推進のための、**新たな取組の実証や、全国的な普及活動等を支援**します

<畜産クラスターのイメージ>



畜産農家をはじめ、地域に存在する各関係者が有機的に連携・結集し、地域ぐるみの高収益型畜産体制(畜産クラスター)を各地に展開し、コストの削減や付加価値の向上・需要の創出を目指す取組を支援

畜産収益力強化支援事業

畜産クラスター計画に定められた中心的な経営体の収益性の向上等に必要な**機械のリース整備**を支援

実施主体

民間団体

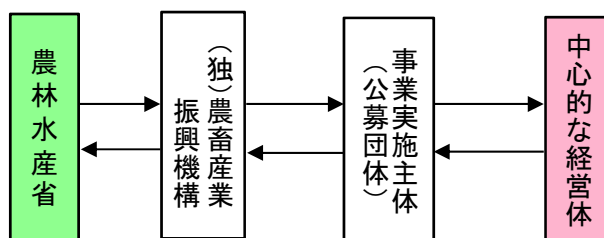
補助率

1/2以内

支援対象者

個別経営体、法人等

手続きの
流れ



→：補助金交付の流れ、←：計画申請の流れ



搾乳ロボット



バルククーラー



汎用型(稲WCS、トウモロコシ等に活用)飼料収穫機

畜産競争力強化整備事業

畜産クラスター計画に定められた中心的な経営体の収益性の向上、畜産環境問題への対応に必要な**施設整備等**を支援

実施主体

民間団体

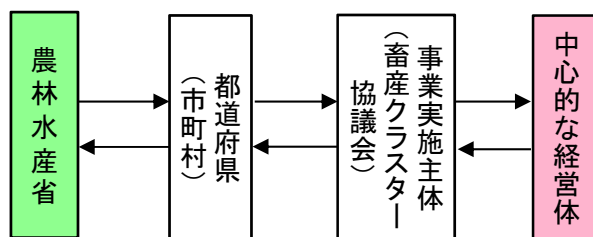
補助率

1/2以内

支援対象者

個別経営体※、法人等
(※法人化の計画を有する家族経営)

手続きの
流れ



→：補助金交付の流れ、←：計画申請の流れ



ミルクングパーラー



飼料調製施設



畜産環境対策施設

その他、以下の事業にも畜産クラスターが活用できます！
(各事業の詳細は、P27、28をご覧ください)

畜産・酪農生産力強化緊急対策事業
(酪農経営改善緊急対策、肉用牛繁殖性向上緊急対策)

畜産
クラスター

畜産クラスター関連事業



**地域の畜産・酪農の収益性向上を図る
取組を支援します。**

○ 畜産クラスター関連の事業について、26年度補正と27年度当初予算を合わせて新規に**279億円の予算を確保**しました。

○ 畜産クラスターとは、畜産農家と地域の畜産関係者(コントラクター等の支援組織、流通加工業者、農業団体、行政等)がクラスター (ぶどうの房)のように、一体的に結集することで、**畜産の収益性を地域全体で向上させる**ための取組です。



○ この事業は、地域の関係者が連携して作成した「畜産クラスター計画」に位置づけられた中心的な経営体に対して、**施設整備・機械リース**を支援するもので、

① 補助率1／2

(機械リースは、従来の1／3から引き上げ)

② 個別経営も対象

(施設整備は、従来の共同利用要件は課さず、法人化を計画すれば家族経営も対象。)

とするなど、**従前の事業の枠を超えた支援**を行います。

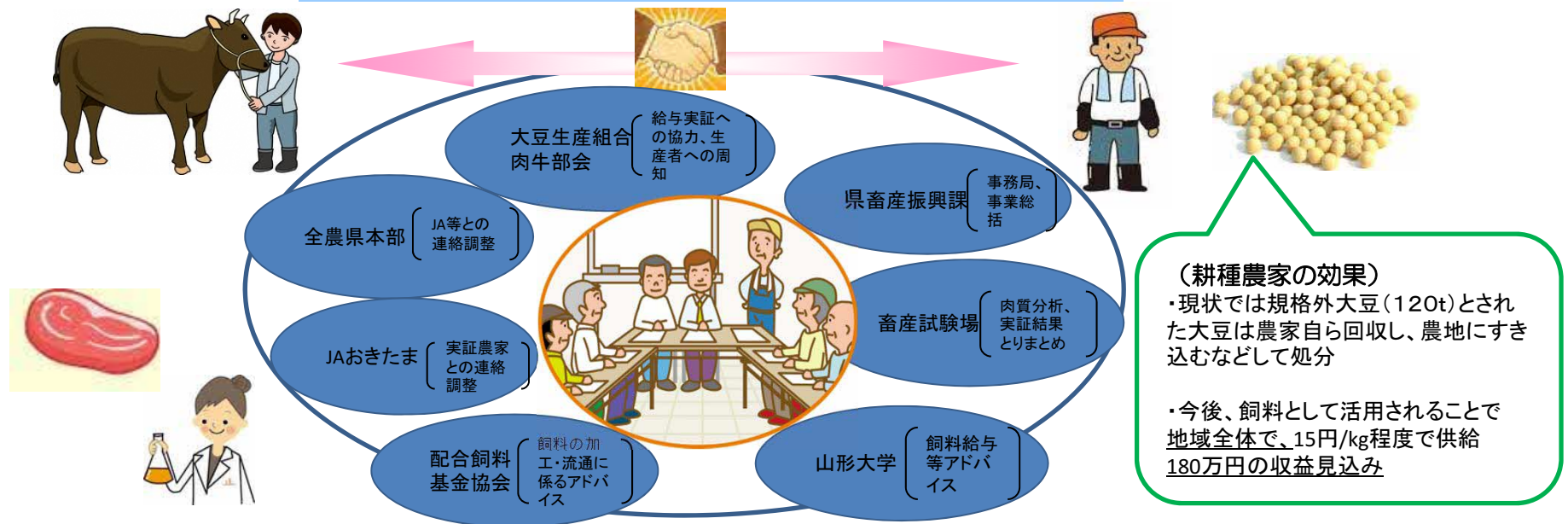
○ また、中心的な経営体は、**地域の事情に応じて、必要があれば、多数の者になることも可能**です。

耕種農家も取り込んだ畜産クラスター事例① 山形県

山形県規格外大豆畜産利用協議会

規格外大豆を飼料として給与することで、肉質や脂質の良い牛肉ブランドを確立し、普及することにより付加価値向上とコスト低減を実現

規格外大豆を活用した肥育牛への給与実証



（耕種農家の効果）

・現状では規格外大豆（120t）とされた大豆は農家自ら回収し、農地にすき込むなどして処分

・今後、飼料として活用されることで
地域全体で、15円/kg程度で供給
180万円の収益見込み

（実証内容）

○肥育牛に加熱・発酵処理した規格外大豆をモデル的に給与し、肉質・脂肪等を分析・調査し、生産性・コスト低減効果を実証
この結果を踏まえ、県内の肥育農家に規格外大豆の飼料利用を普及

（肥育農家の効果）

①付加価値の向上：

肉質や脂質の良い牛肉ブランドとして付加価値を高めて販売

②飼料価格の低減：

未利用資源の活用による飼料費のコスト低減

地域全体で、83 百万円の収益増

【地域の収益性向上】

○規格外大豆飼料給与1300頭 ×（販売価格上昇5.2万円/頭＋飼料費低減1.1万円/頭）＝ 8,190万円
○耕種農家の収益180万円

川上（生産者）から川下（小売業者）まで参加した畜産クラスター事例② 香川県

讃岐牛・オリーブ牛振興会

オリーブ飼料を給与したオリーブ牛の付加価値向上と販路拡大による収益力向上の実現

○讃岐牛・オリーブ牛振興会

- ・指定生産者(78戸):繁殖・肥育地域内一貫生産
- ・JA香川県、県肉連:運営用務
- ・県畜産協会、県畜産課:企画・立案
- ・指定販売店(105店)
- ・指定料理店(60店)



【飼料製造業者・耕種農家】

○オリーブ飼料製造業者

- ・(株)東洋オリーブ
- ・(株)アグリオリーブ小豆島
- ・法美匠
- ・新規オリーブ飼料製造業者

○オリーブ
農園
小豆島内
香川県内

供給

連携

【獣医師・普及員・関係団体】

【効果】

【実証内容】

○牛肉の食味アンケート調査、肉質分析による美味しさ指標づくり、取組の広報等を実証
この結果を踏まえ、オリーブ飼料(オリーブ搾油後の果実を乾燥)を給与したオリーブ牛の品質向上と優良繁殖雌牛導入等により生産拡大

【生産量の増大】

オリーブ牛認証頭数、1,450頭→2,400頭

【高付加価値化】

オリーブ認証牛として、付加価値を高めた販売

【販路拡大】

広報宣伝の強化

地域全体で、71百万円の収益増

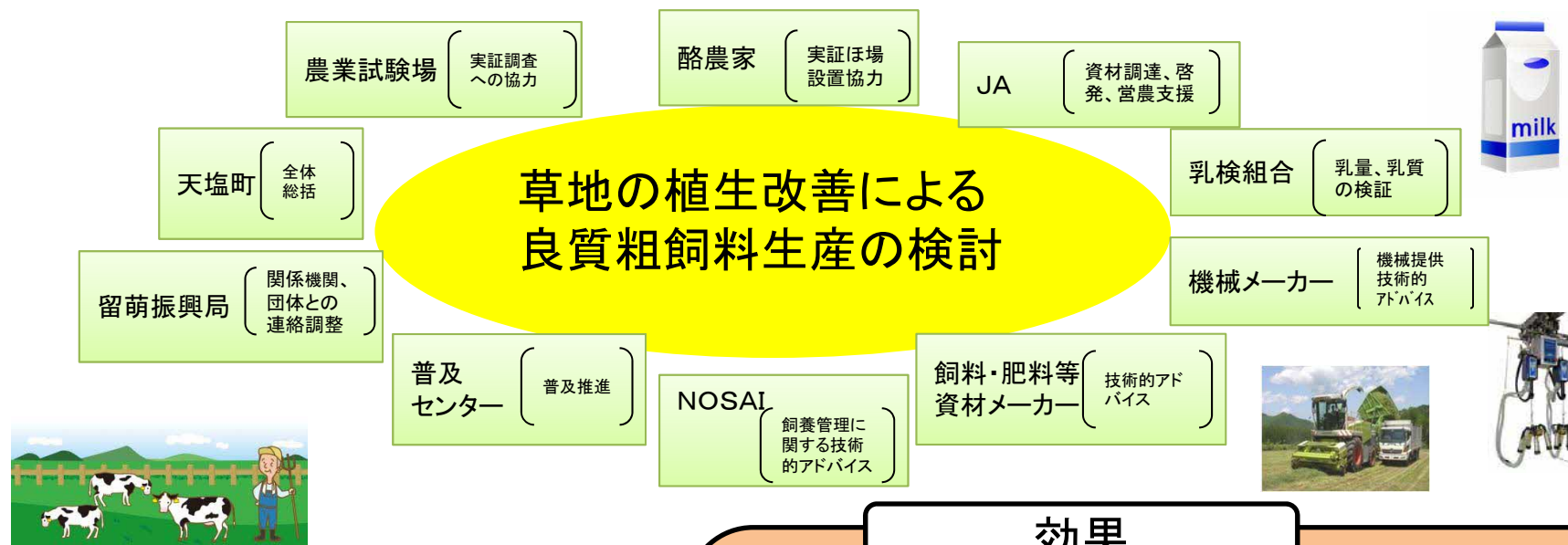
【地域の収益性向上】

認証牛950頭(生産増)×7.5万円/頭
=71百万円

地域の様々な関係者が連携、結集した畜産クラスター事例③ 北海道

天塩町営農対策協議会

地域に適した草地の植生改善手法を普及拡大させ、良質自給飼料の生産性向上による酪農・畜産経営の収益力向上を実現



実証内容

○地域に適した植生改善手法(草地更新工法、イネ科強害雑草防除体系、品種の選定等)を農家など関係者の目に見える形で実証・確立
この結果を踏まえ、地域に適した草地の植生改善手法を普及拡大

効果

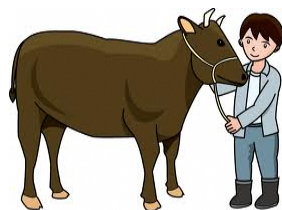
- ①経産牛1頭あたりの収益増
良質粗飼料給与による乳量向上
- ②地域全体での収益増
 $7,907 \text{ 頭} \times 1 \text{ 頭当たり収益増}$
 $73,396 \text{ 円} = 580,342 \text{ 千円収益増}$

*** 1頭当たり乳代約7万円収益性増加**
地域全体では、乳代で580百万円の収益増見込み。

地域の肉用牛関係者が連携した畜産クラスター事例④ 福島県

JA東西しらかわ和牛繁殖振興協議会

発情発見装置の活用による生産性の向上とモデル的大型農場の設置による地域の和牛繁殖生産基盤の維持・拡大



和牛繁殖農家
(実証参加・取り
まとめ)

後継者グループ
(実証参加・取り
まとめ)

○JA東西しらかわ (事務局・総括・実証取りまとめ)

・発情発見装置を利用した1年1産を目指した飼養管理技術の実証

・100頭規模のモデル的大型農場の設置に向けた検討

コントラクター組織
(実証支援)

埴町
(参加者連絡調整)

福島県
県南農林事務所
(助言・指導)



飼料製造業者
(助言・指導)

JA全農福島
(助言・指導)

【実証内容】

○発情発見装置による農家の作業負担軽減と分娩間隔短縮に関する取組を実証
○100頭規模の大型農場の設置に向けた指標づくり及び検討

【効果】

【分娩間隔の短縮による子牛生産の増加】

繁殖雌牛頭数 1,500頭

分娩間隔 13.2ヶ月 → 12.5ヶ月

子牛生産 1,365頭 → 1,440頭 75頭増

【100頭規模農場の設置による子牛生産の増加】

子牛生産 100頭 × 12/12.5 = 96頭増

地区全体で171頭の増加

地域全体で、84百万円の生産拡大

【地域の子牛生産増加額】

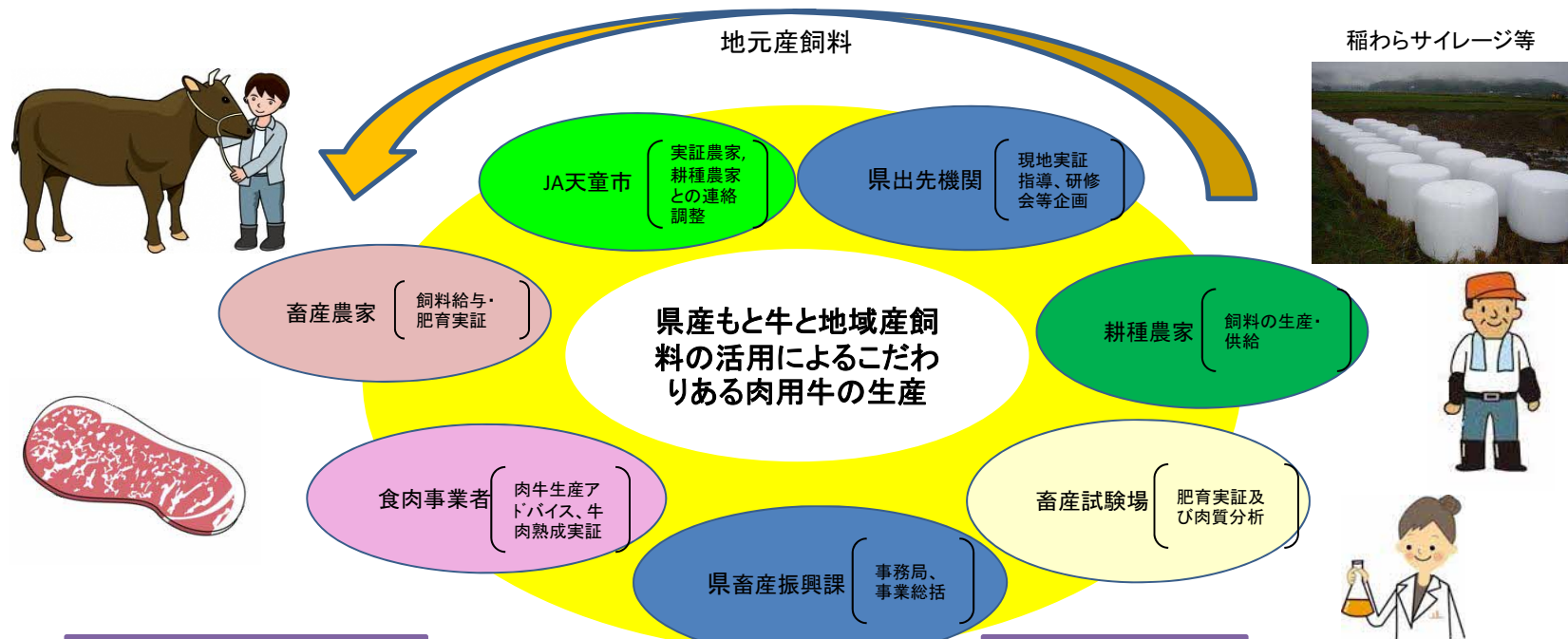
子牛171頭(生産増) × 49万円/頭
= 84百万円

※49万円/頭はH25年の福島県平均子牛価格

地域の耕畜関係者が連携した畜産クラスター事例⑤ 山形県

未来ある肉用牛生産協議会

肥育仕上げ期の給与飼料を県産を中心とした100%国産飼料とする特徴ある飼養管理と牛肉の熟成技術を組み合わせ、牛肉の差別化と飼料コストの低減を実現



【実証内容】

○県産もと牛の肥育仕上げ期に、県産を中心に100%国産飼料を給与し、発育や肉質、食味等への影響を調査・分析、また生産された牛肉の熟成技術を実証。その結果を踏まえ、他産地との差別化を推進

【効果】

(肥育農家の効果)

①飼料価格の低減:

肥育仕上げ期の飼料をすべて国産にすることによる飼料費の低減

②飼料自給率の向上:

肥育仕上げ期に100%国産飼料を給与することによる飼料自給率の向上 15% → 25%

地域全体で、**5百万円の収益増**
【地域の収益性向上】

○肥育仕上げ期100%国産飼料給与
200頭 × (飼料費低減2.6万円/頭)
= 520万円

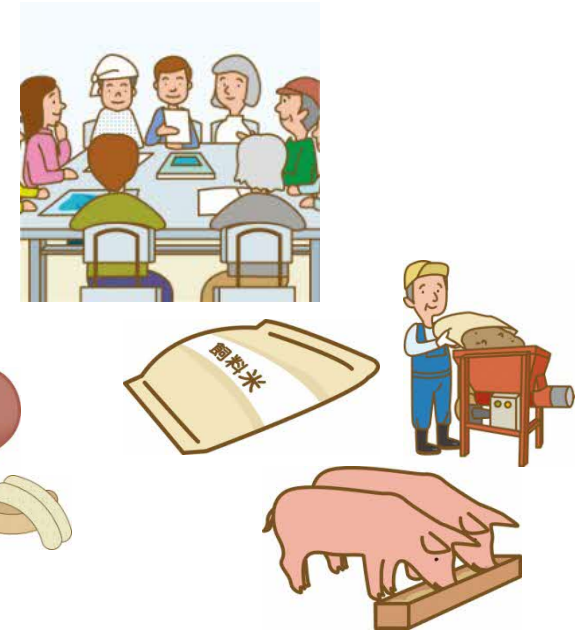
地域の畜産農家と畜産関係者が連携する畜産クラスター事例⑥ 神奈川県

かながわ銘柄豚肉推進協議会

飼料用米利用による豚肉の品質向上と地産地消による消費拡大の取組による収益力向上を実現

畜産クラスター

- ・銘柄豚肉出荷養豚農家(生産者調整等)
- ・全農神奈川県本部畜産部(技術指導等)
- ・神奈川県環境農政局農政部畜産課(技術支援等)
- ・神奈川県畜産技術センター(技術支援・普及指導)
- ・神奈川県畜産会(技術支援・経営支援)
- ・神奈川県畜産振興会(技術支援)
- ・(株)横浜ミート(技術支援・消費拡大等支援)
- ・神奈川県養豚協会(事務局)



実証内容

○銘柄豚肉の有利販売を促進するため、銘柄豚肉指定飼料の一部を飼料用米に置き換え、品質向上生産実証試験を流通業者や消費者等のアンケートによる品質の評価を得ながら実施。
実証試験結果や消費拡大イベントの開催により、県下銘柄豚肉の販売促進を図り、生産者の収益力を向上

効果

【販売頭数の増加】

銘柄豚肉生産グループにおける
銘柄豚肉としての出荷頭数
43,800頭 → 50,000頭 14%増

【高付加価値化】

飼料用米利用による付加価値の向上
イベント開催による認知度の向上による
販売店の増加

地域全体で12.9百万円の収益増

【地域の収益性向上】

6,200頭数 × 77kg × 27円※
= 12.9百万円

※H25の銘柄豚と非銘柄豚の枝肉価格の差額

地域の畜産関係者や飼料メーカーが連携する畜産クラスター事例⑦ 長野県

なんしん しりょうようまい りょうふきゅう きょうぎかい
南信飼料用米利用普及協議会

飼料用米、リンゴジュース粕等を利用した高付加価値で且つ安価な飼料を製造し、乳牛へ給与することにより、飼料コストの低減を図り収益力向上を実現する

畜産クラスター

生産者集団等

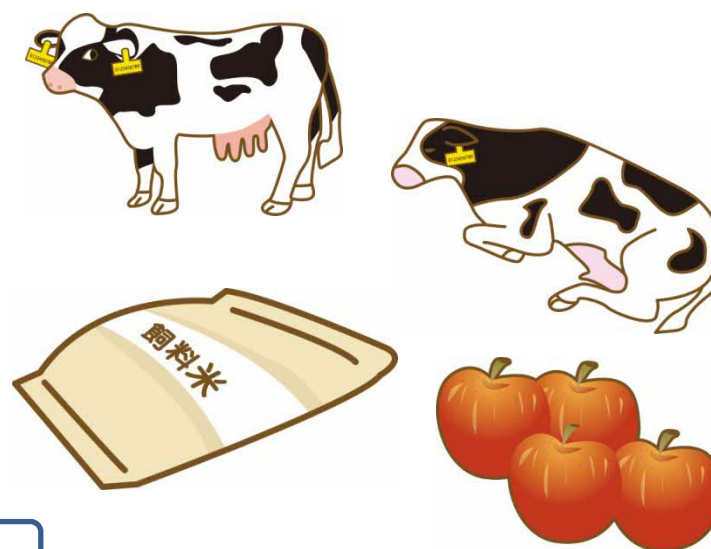
- ・伊那酪農業協同組合（生産者等調整、技術指導等）
- ・上伊那農業協同組合（飼料用米供給等）
- ・城田牧場（飼料用米給餌・実証）

行政関連、事業進行

- ・（一社）長野県農協地域開発機構（事務局）
- ・長野県（実証指導・助言等）

飼養管理技術支援

- ・（株）イトウ精麦（飼料用米加工・TMR調製実証）
- ・中央オリオン販売（株）（採食量データ等の収集・技術支援）



実証内容

○飼料用米の発芽、圧ペン加工、ペレット化による高付加価値飼料の製造及び地域の飼料用米とリンゴジュース粕等の地域資源を利用した嗜好性が高く、長期保存可能な発酵TMRの製造、給与実証を行い、調製技術の開発等を実証
この結果を踏まえ、南信地域の飼料コストの低減を図る

効果

【飼料コストの低減】

配合飼料価格58円/kg → 52円/kg

TMR飼料価格41円/kg → 36円/kg

【飼料自給率の向上】

穀類の自給率 0% → 20%

粗飼料自給率 80% → 80%

地域全体で20.1百万円（62.1百万円）の収益増

【地域の収益性向上】

1頭当たり 配合飼料 2,800kg/年

TMR飼料 10,360kg/年

1頭あたりコスト低減額 16,800円/年（配合）

[51,800円/年（TMR）]

1,200頭※ × 16,800円 = 約20.1百万円（配合）

[1,200頭※ × 51,800円 = 約62.1万円（TMR）]

※伊那酪農業協同組合の搾乳牛飼育頭数

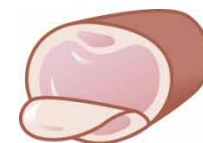
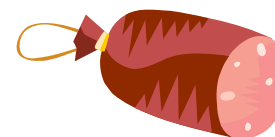
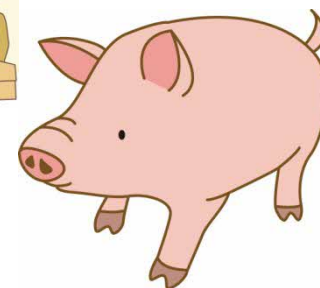
県内の畜産関係者が連携する畜産クラスター事例⑧ 長野県

信州おいしい豚肉生産協議会

オレイン酸に着目した県独自のおいしい豚肉基準を策定し、県産豚肉のブランドの確立を図り収益力向上を実現

畜産クラスター

- ・全農長野県本部(サンプル提供等)
- ・長野県養豚協会(サンプル提供等)
- ・長野県農協直販(株)(サンプル採材、成分測定等)
- ・(株)マルイチ産商(サンプル採材、成分測定等)
- ・(一社)長野県畜産会(事務局)
- ・長野県畜産試験場(食味試験、事例検討等)
- ・長野県園芸畜産課(事務局)



実証内容

○県産豚肉のオレイン酸含有量等の現状を把握するとともに、食味との関連を調査、実証し、「おいしい基準」の策定会議を実施し、基準を満たす豚肉生産技術の検討、認定制度の研究を実施
この結果を踏まえ、県産豚肉のブランドの確立を図る

効果

【県豚肉生産額の向上】

生産額49億円 → 50億円

〔 県域全体で1億円の収益増
長野県食と農業農村振興計画から 〕

地域の畜産関係者や試験研究機関が連携する畜産クラスター事例 ⑨ 長野県

やつがたけ なんろくほうぼく きょうぎかい
八ヶ岳南麓放牧協議会

放牧酪農への転換により、生産コストの低減を図るとともに、酪農産物の差別化・ブランド化を図り収益力向上を実現

畜産クラスター

生産者集団

- ・JA信州諏訪（生産者等調整、技術指導等）
- ・長坂放牧研究会（技術支援）

行政関連、事業進行

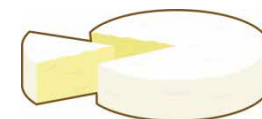
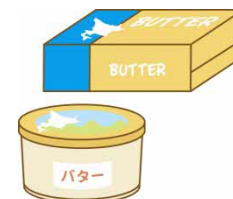
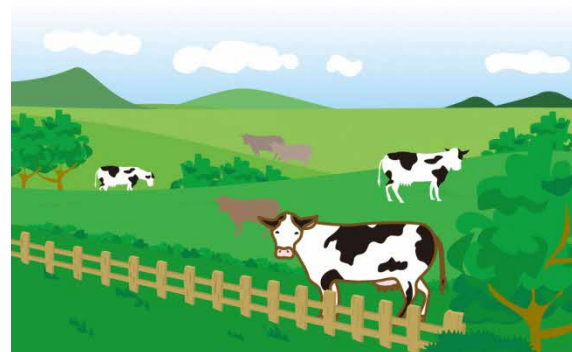
- ・（公財）農村更正協会
- ・八ヶ岳中央農業実践大学校（事務局、実証農場）
- ・諏訪農業改良普及センター（技術支援）
- ・山梨県畜産普及センター（技術支援）

畜産経営支援

- ・日本畜産草地種子協会（広報等）
- ・全農長野県本部畜産課（JA、生産者、教育ファーム等調整）
- ・長野県畜産協会（経営分析・支援等）

飼養管理技術支援

- ・信州大学農学部食料生産科学科（技術支援）
- ・山梨県酪農試験場（技術支援）
- ・東日本くみあい飼料（NON GM飼料供給等）



実証内容

○放牧酪農における、配合飼料等の購入飼料の節減効果、簡易退避舎等施設への低投資の実現、家畜行動学に基づく、省力化に向けた実証等を行うとともに、生草の接種等による生乳の機能性向上と加工への連携を実証
この結果を踏まえ、八ヶ岳南麓地域への放牧の普及を図り生産コストを削減

効果

【生産性の向上】

生産コストの30%削減
経産牛650千円/頭 → 455千円/頭

【高付加価値化】

放牧生乳を利用した機能性乳製品（チーズ、ヨーグルト）の製造

地域全体で17.6百万円の収益増

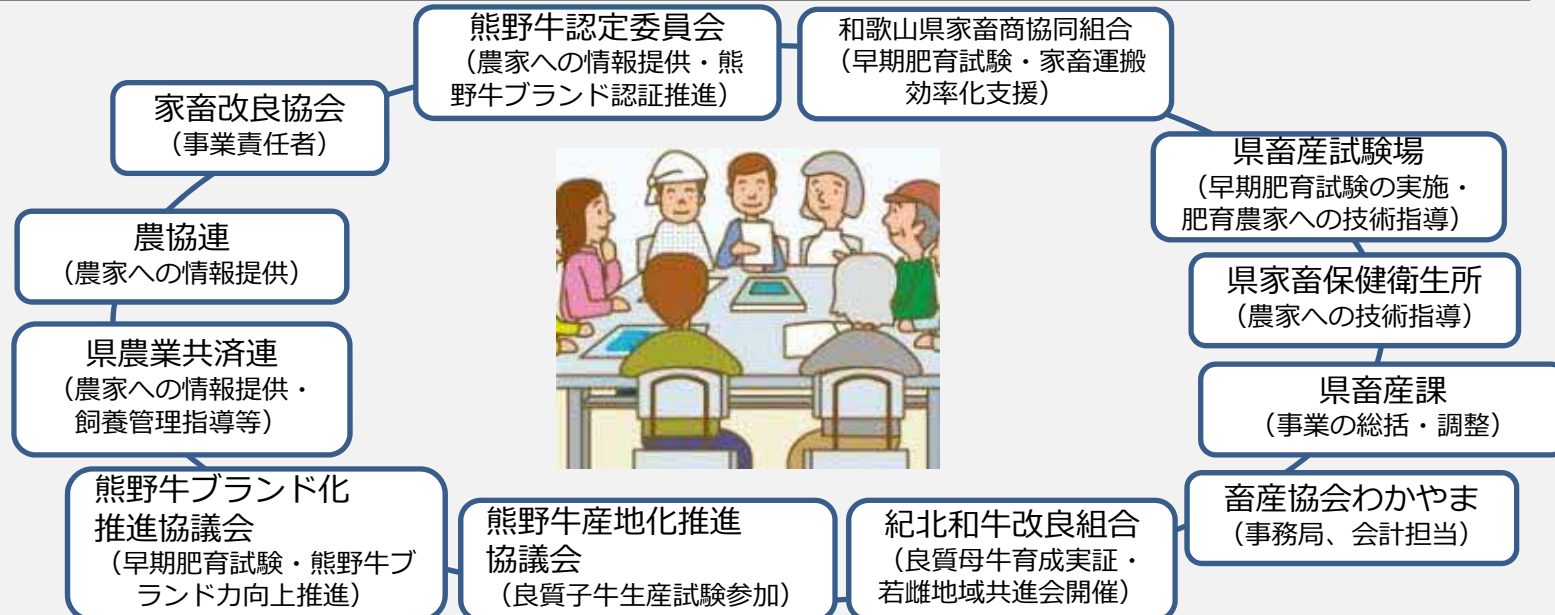
【地域の収益性向上】

90頭数 × 195千円 = 17.6百万円

地域の様々な関係者が連携、結集した畜産クラスター事例⑩ 和歌山県

全国和牛能力共進会和歌山県出品推進協議会

熊野牛の低コスト・高品質生産技術を確立し、普及等することにより、畜産経営の収益力向上を実現



(実証内容)

○ 子牛生産マニュアルの作成、普及、若雌地域共進会の開催により、データ収集及び分析、評価



○ 短期肥育試験の実施、データ収集及び分析、肥育マニュアルの作成、普及



【繁殖農家の効果】

・ 和牛繁殖雌牛平均分娩間隔の0.6ヶ月短縮

【肥育農家の効果】

・ 和牛肥育牛の出荷日齢を1.0ヶ月齢短縮、出荷生産物に占める上物率を9%増加

→ 地域全体で約4,000万円の収益増

【その他の期待される効果】

・ 繁殖雌牛、肥育牛の増頭等により、地域全体で1億3,200万円の収益増

〔さらに、ブランド力向上などにより〕

地域の畜産関係者や資材メーカーが連携する畜産クラスター事例⑪ 福岡県

ちくごおおかわ しりょうまいけんきゅうかい
筑後大川飼料米研究会

肉用牛飼養農家において飼料米を利用することで、肉質・増体量を確保しつつ、濃厚飼料コストの低減を図り収益力向上を実現



(実証内容)

飼料米の保管及び利用技術における課題を解決し、地域の肉用牛飼養農家へ飼料利用を普及

- (1) 畜産農場における保管場所や保管用の資材の違いによる**飼料米保管状況調査**
- (2) 肥育牛に、配合飼料の一部を粉碎した**飼料米で代替給与**し、増体及び肉質への影響を調査

(効果)

- 肉用牛飼養農家における濃厚飼料コスト低減
- 地域の耕種農家と畜産農家の一層の連携促進
- 飼料米生産利用面積拡大

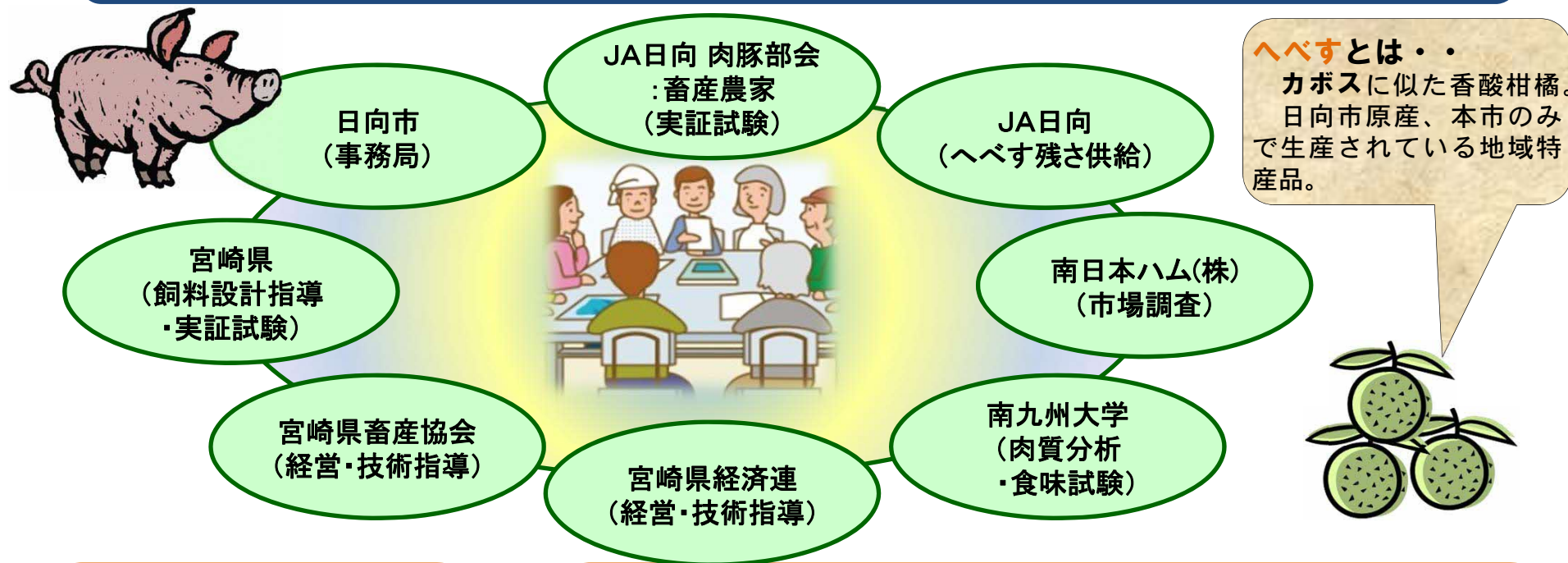
地域全体で20,160千円
のコスト低減
(飼料米給与頭数960頭×
飼料費低減21千円/頭＝
20,160千円)



地域の様々な関係者が連携した畜産クラスター事例⑫ 宮崎県

へべす豚プロジェクト会議

地域特産品の「へべす」の加工残渣飼料を給与した「へべす豚」の付加価値向上による収益力向上の実現



【実証内容】

肉豚にへべす残渣飼料を給与し、肉質・嗜好性等を分析・評価し、優位性を実証。
この結果を踏まえ、「へべす豚」のブランド確立を図る。

【効果】

- ①付加価値の向上
肉質・嗜好性等の優位性の
実証による付加価値向上
- ②飼料価格の低減
未利用資源の活用による
飼料費の低減

地域全体で、2,270千円の収益増

【地域の収益性向上】

$1,600\text{頭} \times 75\text{kg/頭} \times 11\text{円/kg} = 1,320\text{千円}$

【飼料費削減】

$1,600\text{頭} \times 594\text{円/頭} = 950\text{千円}$

※JA日向肉豚部会の年間出荷頭数8千頭のうち、20%
(1,600頭)を高付加価値品である「へべす豚」として販売

地域の様々な関係者が連携した畜産クラスター事例⑬ 宮崎県

児湯地域畜産クラスター協議会

焼酎粕飼料を給与した和牛経産牛肥育の付加価値向上による収益力向上の実現



【実証内容】

和牛経産牛肥育に焼酎粕飼料を給与し、肉質・嗜好性等を分析・評価し、経産牛の付加価値向上を実証

この結果を踏まえ、地域農家へ飼養管理技術を普及

【効果】

- ①付加価値の向上
肉質・嗜好性の改善による付加価値の向上
- ②飼料価格の低減
未利用資源の活用による飼料費の低減

地域全体で、1,640万円の収益増

【地域の収益性向上】

認証牛200頭(生産増) × 8.2万円/頭
= 1,640万円